

「自治会ニュースコンクール2013」

講評

(2014/03/15 審査委員長)

本コンクールは今回で3年目を迎え、引き続き奈良県の協力を得て対象地域を広げ、大和高田市、御所市、香芝市、葛城市、生駒郡、磯城郡、北葛城郡で実施した。応募があったのは1市8町の18自治会・大字であった。

連続して応募のあったニュースの多くに、明らかな改善、進歩の跡が見られた。また、全体的にレベルアップが感じられ、自分たちのニュースを少しでも良いものにしようという意欲がうかがえた。

今回の応募ニュースを見て、強く印象づけられたのは以下の2点である。

高齢化が著しく進んでいる地域、子どもが多く活気のある地域、さらには、市域であるのに“限界集落”化まで心配されている地域など、自治会の環境は実に様々で、それぞれが自分たちの実情に合った紙面づくりに努めている。

自治会・大字の防災・防犯への取り組みが一段と強化されている。

住民の意識、マンパワー、費用などの点から、ニュースを発行していない自治会・大字も依然多いと思われる。このコンクールがきっかけとなって発行するところが増えていくことを期待したい。また、自治会ニュースの性格やその意義を考える時、回覧しているところはできるだけ全戸配布を目指してほしい。

香芝・旭ヶ丘ニュータウン自治会では2,000部を、また真美ヶ丘自治会では1,500部を作り全戸配布しているという。人手の問題だけではなく様々な工夫もなされていることと思われる。是非持続して行ってほしい。

今回は新たに『審査委員奨励賞』を設けた。これは、総合評価とは別にして、紙面やニュースのつくり方に特色があるものを、各審査委員が独自の視点で奨励賞として選んだものである。

最優秀賞（実行委員会会長賞）

「まみがおか」（香芝市）

二年連続の受賞。今回も応募作の中で群を抜いている。自治会ニュースの一つの模範とも言えよう。構成、レイアウト、文字のフォントや見出しとも申し分なく、強いメッセージ性がある。

今回特に印象づけられたのは、住民に自治会をより知ってもらうための商品付きクイズや自治会30周年記念事業の募集など、単なるニュースづくりに終わっていないところ。地域情報共有ツールとしての紙媒体に対するしっかりしたコンセプトがうかがえる。

毎日新聞社賞

「星和台ニュース」（河合町）

カラフルで、各記事の余白も生かされ、高齢者や子どもに優しい紙面。ホチキス綴じをやめ、文字を大きくするなど、読み手を意識した心配りが良い。色づかいにメリハリをつけ、写真をより鮮明にすれば、さらに良さが際立つだろう。

内容も豊富。ユニークなのは、ゴミ出しの具体的な違反状況を一覧表にして載せていること。近所同士ではなかなか言い出せないことだろう。違反チェックの苦労もしのばれる。

優秀賞（河合町総代自治会長会賞）

「泉台ニュース」（河合町）

昨年度、毎日新聞社賞。地域の高齢化を意識して文字を大きくし、B5判をA4判に拡大したことが効を奏している。写真、イラストも綺麗になり、改善点が顕著である。

キメ細かな手作り感は相変わらず。丁寧なニュースづくりが、よりグレードアップしているのを感じる。

45年間、毎月欠かすことなく発行し続けていることに、改めて敬意を表したい。

優秀賞（河合町長賞）

「石見だより」（三宅町）

二年連続の受賞。50号となった新年号は、紙面づくりにより力が入っているように感じられる。センスの良さは相変わらず。カラー、カットの使い方とも良く、記事もコンパクトにまとめられ、親しみやすく読みやすい。

防災クイズは好企画。防災総合訓練の紙面を参加者の声で構成し、小学生の感想をハコ組みにした工夫も光る。

審査委員長特別賞

「久美ヶ丘かわらばん」(河合町)

カラーは使っていないが、写真、イラストを巧みに配し、ビジュアルな紙面。見出しにもメッセージ性があり、優秀賞になったものと比べても遜色はない。

注目されるのは「班長・役員の年齢制限」に関する議論を紹介していること。こうしたことはなかなか結論が出にくく、下手をすると自治会内に不満を残すことになりかねないが、ニュースで議論があることをオープンにするのも一つのやり方だろう。

「三室自治会だより」(三郷町)

カラー写真を多用し、写真誌のようなつくりが情報を良く伝えている。写真の撮り方、レイアウトともによく、自治会活動への関心を高めようとする努力が伝わってくる。毎月発行で、翌月の予定を最終面に載せているのも便利だろう。

事情があるのだろうが、回覧ではなく全戸配布だったら、と思う。

「香芝 旭ヶ丘」(香芝市)

N T祭のカラー写真の見開き展開が、強いインパクトを与えている。その他の記事も組み方、見せ方に進歩の跡がうかがえる。N T祭への協賛企業のカラーロゴを今回も2ページの見開きで掲載しており、自治会の勢いというものを感じさせる。

担当者1人というのが、持続性の点で気になるところ。

「高塚台二丁目ニュース」(河合町)

防災見学会、防災訓練、救命救急講習会などを丁寧にフォローしており、日頃の防災・安全への取り組みがうかがえる。編集の仕方に、あと一步の工夫を望みたい。

定番化した民生・児童委員と包括支援センター職員の顔写真付き紹介は、住民に安心感を与えていることだろう。

審査委員奨励賞

震災に負けないで賞「緑ヶ丘ニュース」(河合町)

東南海・南海地震の予測を受け、地震対策に総力をあげている。「保存版 防災マップ」はニュースの付録で、ハンディーな便利帳とでもいうべきものだが、有用で秀逸。自前でデザイン、原稿作成を行ったことに感心させられる。

歴史文化賞「南郷だより」(広陵町)

地域の史跡と歴史を紹介し、その恩恵を現在も受けていることへの感謝の法要が毎年営まれていることを伝えている。新住宅が増えつつある中で、新旧住民一体となった絆づくりが感じられる。

伝統文化賞「城古ニュース」(河合町)

地域への求心力を生む祭事・年中行事を住民のカラー写真で大展開した”一点豪華”主義。古くからの土地の人々が住む地域であり、日常生活についての情報はさほど載せなくてもいいのかもしれない、と考えさせられた。

手づくりほのぼの賞「自治会だより」(斑鳩町目安)

1面トップのイラストとキャプションが楽しい。いかにも地域の年配者が手づくりで作っているという、ほのぼの感がある。活字も大きく親しみやすい。

頑張るゾ賞「青葉台新報」(香芝市)

駅前開発が進まず、空き家・空き地が広がり、一方で住民が高齢化する中、地域をなんとかしたいという思いが、素朴で気負いのない紙面から伝わってくる。昨年度の応募後にコピー機を新調し、写真の精度も上げている。

以上